

私たちの町、今とこれから

1年2組

●今の私たちの町

今私たちの町は、明るかった光、人の姿が消えた。3月11日午後2時46分に全ては始まった。海から押し寄せてくる波は、町や人々を一瞬で奪っていった。私は津波の怖さを改めて知った。自分の住んでいた家は跡形もなく何も残っていなかった。唯一残っていたのは家の基礎の形、玄関の床だけだった。これは本当に現実か？夢じゃないのか？と何度も思った。

あの日の前日までピンピンしていた人が、笑いあっていた人が、どうして亡くならなければならないのか。町もほぼ全てが死んでしまった。がれきを避けて私たちがいつも使っていた道路を車で始めて走ったとき、ものすごく悲しくなった。「ここはあそこ。この次はあれ。」次々と口から出てきた。キャピタルホテルの辺りを通った時、隣にはすぐ海があった。砂浜は削れ、「松原」は無くなってしまった。これからどうなっていくのかは分からない。でも、自分に出来る小さな事から頑張っていきたい。

●これからの自分

私は今の現実を受け入れられない。受け入れなければならないのは分かっているけど、沢山の人が亡くなって、苦しく、悲しい想いをしてきた。毎日遺体安置所に通い、家族を捜し歩くことがとても辛かった。どこかで生きていて欲しいと思っても、町の姿を見れば、そんな希望はもうない。泣いて泣いたあの日々を忘れる事は出来ない。自分の目の前にある物、人は、必ずしもあるとは限らない。無くなって初めて分かること、それは、どんな些細な物、事でも、とてもありがたい事ということ。何気に使っている電気。3月11日に分かったこと、私たちは夕方から電気をつけ始める。当時は電気がつかない状況だった。だんだん日が暮れるにつれ、部屋はどんどん暗くなる。暗いままその一夜を過ごした。真っ暗がどれほど怖いのか思い知らされた。震災があって、沢山のことを経験した。一生に一度とも経験しないようなことを私たちは経験した。その分普通の人よりも強くなれた気がする。亡くなった家族・人々の為にも、今ある命を大切に生き抜いていこうと思う。



・撮影日時 平成23年3月13日

・場所： 陸前高田市大石地区

・コメント： いつもなら建物で見えるはずも無い所が見え、景色がガラリと変わっていて驚いた。



・撮影日時： 平成23年3月13日

・場所： 高田一中 大石坂

・コメント： 自分の住んでいた辺りは、ほとんどが瓦礫の山で、道は無くびっくりした。